

Grand Toit News

グラントワニュース

vol. 76
Winter 2023



企画展紹介 「全てが“県外不出”の北斎コレクション
全貌公開へ向けた〈一章〉開幕！」

劇場事業紹介 「深まる秋とともに
オリジナリティ光る創造事業」

- 特集 追悼 澄川喜一
- 「グラントワのおすすめ」ふだんは見過ごす『モノ』たちの愛と寂しさの物語
- リレーでコラム ほか

新年は
3日(水)から開館！

全てが“県外不出”の北斎コレクション 全貌公開へ向けた 〈一章〉開幕！

島根県津和野町出身の北斎研究者、故永田生慈氏(1951-2018)から、“県外不出”を条件に島根県へ寄贈された「永田コレクション」。同コレクションを紹介する企画展「石見特別版 永田コレクションの全貌公開〈一章〉北斎一「春朗期」・「宗理期」編」について、島根県立美術館で浮世絵を担当する大森拓土さん(専門学芸員)にお話を伺いました。



《新版おどりあづくし》寛政二年(1790)頃
【前期展示】
春朗期における極めて珍しい「おもちゃ絵」の作例。版画ながら世界で唯一現存が確認されている作品。

展覧会タイトルに〈一章〉とありますが、どうしてですか？

「永田コレクション」は、北斎とその門人の作品・資料 2,398 件から成ります。北斎生涯の代表作、世界で一点しか確認されていない希少な作品を数多く含み、北斎に関する個人コレクションとしては「世界最大級」と評されています。島根県はこの壮大なコレクションの全貌を複数回の展覧会を通じて公開する予定で、本展はその〈一章〉として、北斎が浮世絵界にデビューした 20 歳(※)から 45 歳頃まで、主

に用いていた画号から「春朗期」・「宗理期」と呼ばれる時期の作品を紹介します。(※年齢は全て数え年)

「春朗期」・「宗理期」は、北斎の人生の中でどのような時期だったのですか？

北斎は 70 年に及ぶ画業を通じて、傾注した分野や画題、画風を目まぐるしく変化させました。そのため北斎の人生は 6 期に大別されます。その最初期が「春朗期」で、様々な画派の表現を貪欲に吸収し、画技の研鑽に

努めた時期です。それに次ぐのが「宗理期」で、主に裕福な趣味人から特別発注された浮世絵版画・摺物の分野で活躍。抒情的な表現で世評を得て、浮世絵師として飛躍しました。この両期の作品はあまり多くありませ

んが、「永田コレクション」は各分野、様々な画題の作品を網羅し、現存唯一の貴重な作品も数多く含んでいます。

「現存唯一」とのことですが、版画であればたくさんあるのでは？

実はそうでもありません。多くの浮世絵版画は庶民向けに売られた“商品”で、当然、人気絵師による売れ行きの良いものはたくさん摺られました。その点、「春朗」を名のっていた頃の北斎は、お世辞にも人気絵師ではありませんでした。当時摺られた数自体も少なかったのでしょう。そのため、版画であっても世界で一点しか見つからない、というケースは珍しくないのです。永田先生はこの両期の知られざる作品を発見、蒐集し、若き日の北斎の様々な側面を明らかにされました。「永田コレクション」はそんな世界的にも貴重な北斎作品の宝庫なのです。

正直、島根にそんなすごい北斎コレクションがあるなんて信じられないのですが…

以前にも県民の方から「島根にそんなすごい北斎コレクションがあるはずない！」と言われました(笑)。「すこさ」の説明は難しいですが、例えば最近、

海外の研究者たちが作品調査のため当館を訪れています。欧州から来たある研究者に、研究対象に関する作品を 30 点ほどお見せしたところ、「まるでクリスマスの朝みたいだ！」と目を輝かせていました。「永田コレクション」は県外不出ですから、このように鑑賞や調査のため、県外・国外からわざわざ島根を訪れる方が増えていくかもしれません。一方でやはり大切にしたいのは、この地域の方々にその存在や価値を知っていただくことです。島根県立石見美術館で開催される本展をご覧いただければ、きっと「島根県には素晴らしい北斎コレクションがある！」と実感していただけることと思います。



《亀》寛政十年(1798)【後期展示】
「宗理」から「北斎版政」への改号を宣言した際の摺物。現存 2 点はいずれも「永田コレクション」。

※作品はいずれも島根県立美術館蔵(永田コレクション)

これが北斎？ これも北斎！

— 知られざる若き日の軌跡

2023 12/23 SAT
2024 2/12 MON

【前期】12月23日(土)～1月15日(月)
【後期】1月17日(水)～2月12日(月・振休)

【開館時間】9:30～18:00 (展示室への入場は17:30まで)
【休館日】毎週火曜日、12月28日(木)～1月2日(火)
【観覧料】当日券／一般:1000(800)円、大学生:600(450)円
前売券／企画・コレクション展セット 900円

※()内は20名以上の団体料金 ※各種障がい者手帳、被褥者健康手帳をお持ちの方、およびその介助者(1名まで)は入場無料 ※前売券は、ローソン各店(Lコード:63825)、グラントワ総合案内カウンターで(開館前日まで)お求めいただけます。※小中高生の方は、小中高生チケット(無料)をグラントワ総合案内カウンターでお受け取りのうえ、ご入場ください。

【主催】島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、山陰中央新報社、BSS山陰放送
【特別協力】島根県立美術館 【協力】津和野町／津和野町教育委員会
【後援】芸術文化とふれあう協議会

島根県立石見美術館
島根県芸術文化センター「グラントワ」内

北斎

SHUNRO 春朗期
SORI 宗理期

特別版 石見

企画展

永田コレクションの全貌公開〈一章〉

関連プログラム

※観覧券またはミュージアムパスポートが必要

記念講演会
「葛飾北斎 青雲の志」
永田生慈氏のもとで北斎研究にあたったことのある日野原氏をお招きし、北斎の若き頃の画業についてご講演いただきます。
1月28日(日) 14:00～15:30
【講師】日野原健司(太田記念美術館 首席学芸員)
【会場】講義室
申込不要 / 先着 40名 / 聴講無料

受贈報告
「永田生慈 北斎コレクション 一寄贈の経緯と全貌公開に向けて」
本展覧会を企画した島根県立美術館の担当学芸員がお話します。
1月14日(日) 14:00～15:30
【講師】大森拓土(島根県立美術館 専門学芸員)
【会場】講義室
申込不要 / 先着 40名 / 聴講無料

前期も後期も 見てらおう!
本展は前期と後期で約9割の作品が入り替わります。前期をご覧のみなさんにスタンプカードをお渡しします。後期も観覧してスタンプをもらいましょう。すてきな北斎グッズをプレゼントします!

【プレゼント期間】1月17日～2月12日
【スタンプ押印】もぎりカウンター
【プレゼント引換】総合案内カウンター

深まる秋とともに オリジナリティ光る 創造事業

いわみ芸術劇場の大小ホールが耐震工事休館から再開して約半年となりました。秋以降には、趣向を凝らした新たな創造事業が始まります。今回はその中から2つの事業をピックアップしてご紹介します。

※創造事業とは… Grantowならではの特徴を生かして、現代的な芸術表現や、専門性の高い舞台作品の創造に取り組むことで、島根から新たな文化芸術を創造・発信する事業です。

気鋭の演出家による ドラマ・インスタレーション

全国でも珍しい劇場と美術館の複合施設であるGrantowの特性を生かし、劇場と美術館が共同で企画するミュージア。今回は、Grantowの設計者である建築家・内藤廣さんの過去最大規模の個展にあわせ、気鋭の演出家・山本卓卓さんによるドラマ・インスタレーション『オブジェクト・ラブ・ストーリー』を開催します。『オブジェクト・ラブ・ストーリー』は、Grantowの公共スペースを舞台に見立てた、人間不在の演劇です。観客はGrantowへ到着したら、まず物語の入り口となる本を手にいれます。そして、マップと虫メガネを片手にGrantowのあちこちにある「モノ」(オブジェクト)た

ちの小さく見つけにくいつづやきを探して歩きながら、本と交互に読み進めることにより、物語の世界に入っていきます。ふだん何気なくそこにある「モノ」たちはどんな記憶を持ち、何を思い、語ってくれるのでしょうか？

関連企画として、山本卓卓さんが主宰する演劇集団・範遊遊泳の『パナナの花は食べられる』の映像上映会やトークイベントも企画しています。ぜひあわせてお楽しみください。

5年ぶりの凱旋！ Grantow・カンタート

年明けに日本各地やアジアから合唱団が集まり、美しい歌声を響かせてきたGrantow・カンタートが、コロナ禍と耐震工事休館を経て5年ぶりにここ、



Grantow・カンタート 2019より



『オブジェクト・ラブ・ストーリー』チラシ

益田市Grantowへ帰って来ます。合唱指揮者でいわみ芸術劇場の芸術監督も務める栗山文昭をはじめ、お馴染みとなった講師陣を迎え、1月6日・7日の2日間、Grantowが再び歌声でいっぱいになります。

今回は6日に「街角コンサート」として益田市内でふらっと聞けるコンサートを行ったり、2年ぶりに季節合唱団「ネクストクワイア」を募集して7日の大ホールでのコンサートで発表したりと、市民の皆さんが気軽に楽しめる企画もご用意しています。

カンタートの開催に合わせ、県内はもちろん、関東を始め国内各地から多くの合唱団員が益田市を訪ねる予定です。町で見かけたらぜひ温かく迎えてください。そして、7日のコンサートはぜひ大ホール客席で歌声を聴いて拍手を送ってください。益田ファン、石見ファンが増えること間違いなしです。そして拍手以上に大きな感動と、新年の幸運がきっとあなたに訪れますよ。

LIFE with Grantow

Grantowとの出会い

私が高校生の頃、Grantowが開館するにあたりボランティア募集のチラシが学校から生徒へ配布された事をきっかけにボランティア会へ入会。ちょうど通学路の途中でGrantowがあったものだから好都合もいところ。高校生でありながらGrantowのイベントのボランティア活動に参加して非常に良い経験を積むことができました。

進学のため一時期ボランティア会を離れましたが、社会人になり地元へUターンを機に再び入会。今は、イベントボランティアとして「きんさいデー」などへの参加を行っております。

この会を通じて幅広い年代や地域の方々と交流ができ、活発な意見交換も行うことで視野の広い考えを持つことができるようになりました。

『Grantow』のワが輪になり、ボランティア会もさらに大きな集まりになって、多くの人たちの交流の場となればと思います。

[Grantowボランティア会会長 中川和彦]

PICK UP EVENT



前回の様子

ミュージア vol.23

朗読の夕べ「森鷗外のクリスマス」

2023年12月23日(土)
開演 15:00 (開場 14:30)
大ホールステージ

昨年好評だった声優・佐々木望さんによる朗読会の第2弾。前半は森鷗外の代表作「舞姫」をとりあげます。後半は鷗外の子もたちが綴った「パッパ」とのクリスマスの思い出のほか、クリスマスにちなんだ文学の朗読を合唱と解説付でお届けします。

[出演]朗読:佐々木望(声優)、解説:美留町義雄(大東文化大学教授)
川西由里(当館専門学芸員) 合唱:Grantow・ユース・コール
[料金]全席自由・前売1,000円 ※当日500円増 [定員]100名
※チケット発売開始日:11月4日(土) ※未就学児の入場はご遠慮ください。
※無料託児サービスあり。(12月16日までに要申込)

劇・場・を・探・る



【雪カゴ(雪布)】

「雪カゴ」とは、雪が降っているような視覚効果を出すための道具です。1cm四方に切った薄い紙を網の張ったかごに入れ、観客から見えない高さに吊り、かごにつけた紐を舞台の袖から動かすことで紙がかごの網目から落ち、あたかも雪が降っているように見えます。同じ仕組みで布を使用した「雪布」もあります。

今回は「台本」です。

2023
11.25
開場 13:15 (土)
開演 14:00

いわみ
芸術劇場
大ホール

入場料 [全席自由・税込]
一般 3,000円
高校生以下 1,000円
※3歳以上有料
(3歳未満は膝上鑑賞可、
席が必要な場合は有料)

チケット
好評
発売中

Shigenori Kudo & Shimane Flute Orchestra

しまねフルートオーケストラとその仲間たち
日本を代表する世界的フルーティスト
工藤重典氏を迎えて
島根県そして中国地方各地出身の
フルーティストがGrantowに集合

1/7 (日) 1/6 (土)

全国各地から合唱団と一流アーティストが
益田市に集い、日本語と合唱を深め交流する
Grantow・カンタートが5年ぶりにGrantowへ帰ってきます。

年の初めにいい歌を
聴いて拍手をおくり、
幸せな1年にしましょう!

アジア友好の海芸術交流プロジェクト

**Grantow
カンタート
2024**

総合プロデュース:栗山文昭
会場
いわみ芸術劇場大ホール
他

詳しくはGrantow
ホームページをご覧ください。

チケット
好評
発売中

ワークショップ・街角コンサート
井戸端交流会議
講師 青山恵子、信長貴富、寺嶋陸也、藤井宏樹

SHIBATA RIE
柴田 理恵
白石加代子
SHIRAHATA YUKO
白石加代子
中山優馬
NAKAYAMA YUMA
風間 杜夫
KAZUMA KAZUMA

身代金は百億円!?

大講揚~四人で大スベクタクル~

最高にして究極の顔合わせ
一瞬も飽きさせない! これは笑える! これは泣ける!

2024年2月24日(土)

いわみ芸術劇場大ホール
開場 16:15 / 開演 17:00

入場料 [S席]8,000円 [A席]7,000円
[U-25]6,000円(S席・A席一律)
※全席指定・税込

チケット
好評
発売中

Grand Toit's RECOMMENDATION

グラントワのおすすめ



撮影:雨宮透貴

ふだんは見過ごす『モノ』たちの愛と寂しさの物語

劇作家・演出家の山本卓卓さんがグラントワのあちこちにある、いろいろな「モノ」(オブジェクト)たちの愛の眩き(ラブ・ストーリー)を書き下ろし、ドラマ・インスタレーションとして展開します。グラントワへ到着したら、まずは総合案内カウンター前に設置してある本とマップを手に入れましょう。展示と本を番号順に読み進めると、物語として繋がる仕掛けになっています。

マップの順序どおりにグラントワを探検し、あちこちに展示してある「モノ」が話す言葉を追いかけてみてください。展示される文字は小さく、見つけにくくなっています。本と一緒に設置してある虫めがねをご利用ください。

気鋭の演出家が仕掛ける縦横無尽で大胆な世界をぜひお楽しみください。

オブジェクト・ラブ・ストーリー
10月28日(土)~12月25日(月)
会場:グラントワ館内 公共スペース
※詳しい内容はグラントワホームページをご覧ください。

山本卓卓 YAMAMOTO SUGURU
劇作家・演出家・俳優。範囲遊泳代表。加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をピピッドに反映した劇世界を構築。子どもと一緒に楽しめる「シリーズ おとなもこどもも」、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。アジア諸国や北米での公演や国際共同制作、戯曲提供も多数。『バナナの花は食べられる』で第66回岸田國士戯曲賞を受賞。公益財団法人セゾン文化財団フェロー。

で、彫刻制作や個展、講演会、各地の会議や審査会の出席など意欲的にこなしていました。それでもある年齢を過ぎると、自分が得るだけでなく、ここまで成長させてくれたものに感謝し、恩返しをしなくてはならない。そう話してくれた澄川先生は、どんな地位にあっても奢ることなく、自らの人生を冷静に俯瞰で捉えている人だなと感じました。その後120点の彫刻と膨大な数の仕事の資料を島根県に寄贈したのも、恩返しのひとつと伺いました。

当館では、澄川先生を悼み、特別展「追悼 澄川喜一展」を開催します。作家人生の軌跡ともいえる珠玉の作品群をご覧ください。

(石見美術館専門学芸員 左近充直美)



野外彫刻「OROCHI」から見るグラントワ(澄川先生と筆者/2015年)

い緑に覆われている。それらが合わさると、えも言われぬほど美しいと。もっとそれを街の魅力として外に打ち出したらいいんだよと。えっそんな世界の観光都市に例えちゃうのですかと思いつつ、そういわれてみれば思い当たる経験がありました。晴れた日、東京からの戻りの飛行機で萩・石見空港に降り立ち、海を遠目に高台にある空港を降りてグラントワに向かう道すがら、空の青さが視界の半分以上を占め、地平線を強く感じる瞬間がある。ここは先生の言う、スコンと明るい地中海の気候に似ているのかもしれないと。様々な土地を知り比較対象を得ることで自分が今居る土地の「良さ」を発見し、伝えること。その大切さを教わりました。

60歳過ぎたら人はお礼奉公なんだよ

2015年の企画展「澄川喜一 シンプル・イズ・ビューティフル」の準備の時に語られた言葉です。当時84歳ですがバリの現役



澄川喜一(撮影:内海敏晴)

石見は日本のナポリだ!

澄川先生が時折例えを用いて私たちに諭す言葉には印象的なものが多く、今思えば「澄川語録」を作っておけばよかったと少し悔やまれるくらい素敵なフレーズが多くありました。

なかでも、石見・益田をよくイタリアのナポリや、フランスのニースに例えて、街の風景の豊かさを説きました。この益田は入り江のある海沿いの街。統一された赤瓦の色が建物の「群れ」となって連なり、山側は深

The 石見美術館 わたしのおすすめ Collection

主任学芸員 角野広海

「雲谷派」は、桃山時代から江戸時代にかけての約300年にわたって、室町時代の画僧・雪舟等楊に倣った画風で活躍した絵の流派です。初代の雲谷等顔(1547~1618)に始まり、代々萩藩毛利家のお抱えを務めたほか、分家も含めて西日本一帯で広く活躍しました。

本作は雲谷派の3代目、雲谷等約(1591~1644)が描いた作品です。墨をはね散らすようにして描く「潑墨」という技法を駆使しています。何気ない墨



雲谷等約 《山水図》

江戸時代・17世紀 当館蔵

の沁みが、山や木々や家屋に見えてくるのが面白いところです。この技法は、中国南宋時代(13世紀)の画家・玉澗が得意としたもので、日本では室町時代以降に流行し、雪舟も描きました。

近年、雲谷派の評価は高まっており、令和4年度には雲谷派の作品4点が新たに重要文化財に指定されました。

追悼 澄川喜一

2005年のグラントワ開館以来、17年間、センター長を務めた彫刻家・澄川喜一。今年4月に91歳で逝去いたしました。彫刻界のトップランナーとして第一線を走り続けながら、郷里である石見の文化振興と街の活性化を目指して、東京と益田を往来。お茶目な笑顔で職員や地元の方々に慕われました。言葉と共にその思い出を振り返ります。

みさき 美術館に いろいろ



コレクション展 「モダンガール・モダンライフ」 12月13日(水)~2024年1月29日(月) 会場:展示室C

榎本千花 榎本千花 《揚揚戯》 昭和8年(1933)

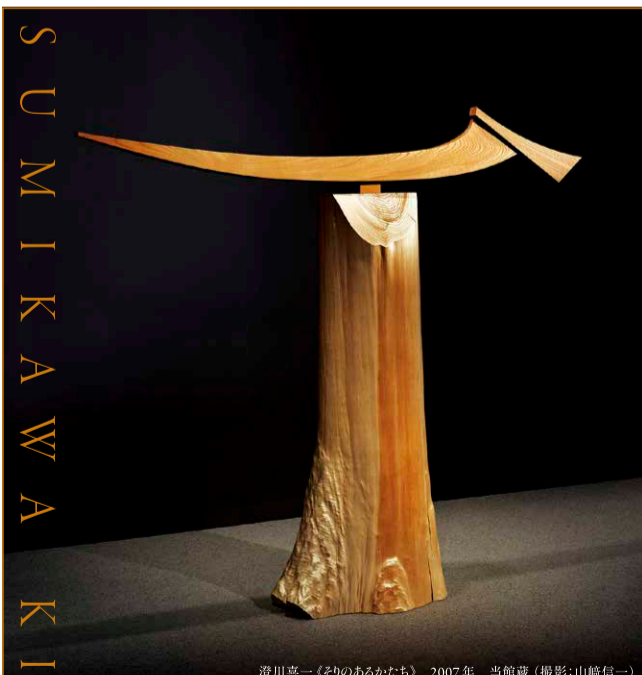
コレクション展「モダンガール・モダンライフ」について、担当学芸員の川西由里さんにきいてみました。

Q1. モダンガールというのはどんな人のことですか?

大正時代の終わりから昭和時代初期にかけて、流行のファッションや都会生活を楽しんだ女性たちのことで、略して「モガ」とよばれることもありましたが。当館では、当時のファッションを伝える絵としてモガを描いた絵画や雑誌を所蔵しています。

Q2. 朗読会にあわせてクリスマスの絵もあるんですね?

この絵はダンスホールのクリスマスを楽しむダンサーを描いたものです。大量消費社会が訪れた昭和初期、人々の憧れをかきたてるおしゃれなアイテムが日本画にも登場しました。モガの時代を彩った国内外の華やかな作品をご紹介しますよ。「朗読の夕べ」とあわせて、クリスマスをめぐる様々な芸術をお楽しみください。



澄川喜一《そのあるかたち》2007年 当館蔵(撮影:山崎信一)

追悼 澄川喜一展

2023年4月に亡くなった島根県吉賀町出身の彫刻家・澄川喜一。本展では、このたびの逝去を悼み、これまで当館に寄贈された彫刻作品を中心に、澄川が生涯一貫して追いつけた「そのあるかたち」をテーマにした作品群約40点を紹介し、創作の軌跡を振り返ります。

2023 12/15 FRI 2024 2/12 MON 島根県立石見美術館 展示室A, B 島根県芸術文化センター「グラントワ」内 [開館時間] 9:30~18:00(展示室への入場は17:30まで) [休館日] 毎週火曜日、12月28日(木)~1月2日(火) [観覧料] 当日券/一般:300(240)円、大学生:200(160)円、高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金 ※各種障がい者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方、およびその介助者(1名まで)は入場無料 [主催] 島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、益田市、津和野町、吉賀町、岩国市、芸術文化とふれあう協議会

石見美術館コレクション展
A コレクション展 雲谷派 2024年2月14日(水)~3月18日(月) ※「The Collection わたしのおすすめ」参照
B コレクション展 森英恵 2024年2月14日(水)~4月上旬まで 1965年から世界を舞台に活躍した森は、日本古来の美術や工芸から着想した作品で人々を魅了しました。本展では森が捉えた「古くて新しい日本」をテーマにその仕事を紹介します。
C コレクション展 モダンガール・モダンライフ 12月13日(水)~2024年1月29日(月) ※「美術館にきてみよう」「PICK UP EVENT」参照
コレクション展 風景画を旅する 2024年1月31日(水)~3月11日(月) 様々な風景が描かれた作品は、見ているだけで旅をしているような気持ちになります。洋画家たちが描いた国内外の風景を旅気分でお楽しみください。

・建築模型や図面などの展示数も多く、鑑賞するのに時間が足りないほどでした。赤鬼と青鬼の対話形式をとった解説文も読み応え十分で、とても内容の濃い展覧会でした!(益田市・40代/企画展「建築家・内藤廣/Built and Unbuilt 赤鬼と青鬼の果てしなき戦い」)
・絢香! よこそ島根県益田市「グラントワ」へ。コロナ禍終息後久しぶりの絢香の美声がグラントワ会場にひびき渡り大大満足。絢香最高! グラントワサイコー!(吉賀町・70代/「絢香 Funtale Tour 2023」)
・普段、邦楽を聴くことは少ないですが、箏と胡弓の演奏がとても心に染み入りました。津和野を拠点に活動されているグループとのことなので、ぜひまた演奏を聴きたいです。(益田市・40代/いつでもどこでも音楽祭「津和野邦楽グループ 韻(ひびき)コンサート」)

Grand Toit & / リレーでコラム 10

左近充直美 (石見美術館専門学芸員)

毎号、職員がコラムで繋ぐ「リレーでコラム」。
第10回は、学芸課の左近充直美さんです。

「石見」を「いわみ」と読む。県外の人で最初からすんなりこう読んでくれる人は、あまり多くいません。長い付き合いの仕事先でも、手紙やメールの宛名を「岩美美術館」と書かれることがまだ時々あります。

かく言う私も県外出身者です。東京の美術館や松江の県美を経由して、現在益田に居ますが、特に東京に居る頃は益田という地名も知りませんでした。しかし、なぜか石見は「いわみ」と読むことがかなり前から出来ていました。それはある一冊の本との出会いから。梅原猛『水底の歌一栴本人麿論』に石見の地名が繰り返し出てくるのです。本著をご存じの方も多いため、詳細は割愛しますが、哲学者・梅原猛さんが書いた万葉歌人・栴本人麿の死にまつわる伝承と歴史を検証した評論です。

高校3年生の時にこの著者の『隠された十字架』という本に出会って衝撃を受けて以来、おっかけのように各地の講演会に行き、理解が困難な哲学本以外、出される本ほぼ全てを読み、隙あらば、弟子になれないか可能性を探っていました。思えばあれは、就活ならぬ「推し活」だったのだと思います。

2019年1月、梅原さん逝去の記事を新聞で見て「ひとつの時代が終わったな。」と寂しく涙した朝を今も覚えています。残念ながら弟子にはなれませんでした。かの石見の地に居ることに、今も不思議なご縁と誇りを感じます。



島根県立万葉公園・和風休憩所裏にある、梅原猛書「栴本人麿終焉之地・鴨島遠望台」の石碑

今回は山本健夫さん(総務広報課長)の予定です。

報告します!

大好評! 企画展開幕記念
「内藤廣講演会」



当日の様子

9月16日(土)、企画展「建築家・内藤廣」の初日に内藤廣さんの講演会を開催しました。県内外、そして海外からも約540名の方が詰めかけ、内藤さんのお人柄や真摯な姿勢がにじみ出たお話を堪能しました。終演後のサイン会にも長蛇の列ができ、内藤さんとの対面に興奮気味の参加者もいらっしゃいました。

参加者の感想

私は建築学生なのですが、これからの建築のあり方を考えることができました。(益田市・10代)
『文化を守る装置』のお話に心を動かされました。グラントワの職員の方、周辺の住人の方、関係されているすべての人々がモチベーション高く、輝いていることに感動しました。(神奈川県・60代)

不安な時代をむかえている中でも戦い続ける意気地を持つように促してくださるようなお話で勇気をいただきました。(兵庫県・60代)

イワミ・アート・ラボラトリー
『ウタは「境界」を超える』
開催しました



当日の様子

津和野町民の表現機会の創出を目的とし開催。講師に中村明珍さんと立川志の彦さんを迎え、津和野中学校と日原中学校の生徒らが5・7・5・7・7のウタをつくり送り合うワークショップを開催しました。日常生活で出会うことのない個性や人生経験をもった講師と共に、表現することの楽しさを学びました!

『松竹大歌舞伎』公演を
開催しました



当日の様子

ホール再開記念公演の最後を飾る松竹大歌舞伎公演を9月10日に開催。グラントワでの公演は8年ぶりという事もあり、当日は着物姿のお客様も多く売店も繁盛し賑やかな会場となりました。舞台では2演目を上演し迫力のある演技と情緒溢れる舞を披露。日本が誇る伝統芸能を堪能できた一日となりました。

グラントワ通への道

Q. アートライブラリーには、どれくらいの数の本が置いてあるの?

A. 美術館や劇場に関連するものを中心に、専門書や雑誌、絵本などを含め、2,600冊以上の本がジャンルやカテゴリーで分けられ、書架に並んでいます。建築やファッションに関する月刊誌などは、最新号が置かれています。気になる本は、ぜひ手にお取りになってご覧ください。



編集後記

■学生時代に「永田コレクション」を津和野でみた県外の友人が島根にたくさん北斎作品があることに感動していました。その姿が印象的でした。[T.Y]

■先日京都から友人が益田に遊びに来ました。たった1日でしたが益田の街を気に入ってくれて益田で子育てしたい!と。嬉しい出来事でした。[M.A]

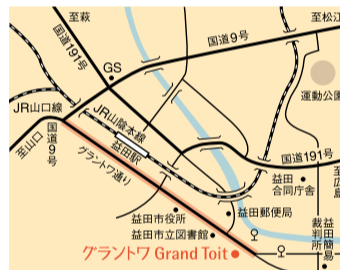
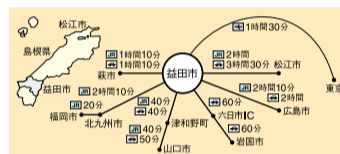
■澄川前センター長と共に走り抜けた開館10周年記念企画展を思い出します。ぶれない強さと美しさを教わりました。安らかに眠りください。[T.Y]

■「糖質オフ」と記されたフルーツグラノーラが目にとまり購入。どんぶりばちへ山盛りに入れて食してみたが、山盛りにしたことを後悔した。[I.T]

INFORMATION

■開館(利用)時間
※グラントワは8:45から開館
石見美術館 9:30~18:00
(展示室への入場は開館30分前まで)
いわみ芸術劇場 9:00~22:00

■休館日(祝日の場合開館、翌平日休館)
※催しに合わせて休館日を変更する場合があります。
石見美術館 毎週火曜日、年末年始
いわみ芸術劇場 第2・第4火曜日、年末年始
※年末年始:12/28~1/2



交通案内
◎石見交通バス「グラントワ前」下車徒歩1分
◎JR益田駅から徒歩15分
◎秋・石見空港からJR益田駅まで連絡バス約15分
◎浜田自動車道浜田ICから自動車約50分
◎JR新山崎駅から益田駅まで特急約90分

グラントワ Grand Toit
島根県芸術文化センター「グラントワ」
〒698-0022 益田市有明町5-15
TEL: 0856-31-1860(代表)
FAX: 0856-31-1884(代表)
e-mail: grandtoit@cul-shimane.jp
www.grandtoit.jp



読者
プレゼント

グラントワ・カンタート2024
「フレンドシップコーラス
コンサート(1月7日)」
招待券をペア5組様に
プレゼント!



毎号抽選でチケットやオリジナルグッズなどをプレゼントします。ぜひ応募ください!

■申込方法 ご希望の方は、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、本号の「Grand Toit News」の感想をご記入の上、11月30日(木)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailのいずれかでご応募ください。【あて先】〒698-0022 益田市有明町5-15 島根県芸術文化センター「グラントワ」『Grand Toit News vol.76 読者プレゼント』係・FAX: 0856-31-1884・e-mail: present@cul-shimane.jp ※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

クリスマスパーティーはポニーのオードブルで...
Xmas オードブル
ご予約承ります

受け渡し期間
2023年12月
22日・25日
各日PM3:00からのお渡し

料金(2人用)
6,800円

ポニー特製
オードブル
承ります
シェフ自慢のオードブルを
ご家庭でお楽しみください。

■予約受付期間
受付中 ▶ 12月20日(水)

■受け渡し日
2023年12月31日(日) PM4:00からのお渡し

料金(4~5人用)
15,800円

※いずれのオードブルも、完全予約制です。※いずれも会員割引対象外

Restaurant
Pony
www.restaurant-pony.com/

■営業時間 ※イベントにより変更あり夜は予約のみ
11:30~16:30(14:00~カフェタイム)
■店休日/毎週火曜日、年末年始
■TEL/0856-31-1873

販売中

永田生慈 北斎コレクション
総目録I「春朗期」・「宗理期」編

津和野町出身の北斎研究者・永田生慈氏より島根県に寄贈された北斎とその門人の作品・資料2,398件を全4冊に分けて収録する総目録を販売します。総目録Iでは、北斎が浮世絵界にデビューした20歳から45歳頃(※年齢は数え年)までの作品を中心に掲載。県外不出の永田コレクションを、ぜひお手元でお楽しみください。
2023年発行/390頁
※総目録II~IVは、今後発行予定です。 **3,300円(税込)**

関連グッズ発売
企画展の開催に合わせ、北斎にちなんだ関連グッズを期間限定で販売いたします。展覧会とあわせてお楽しみください。

2023 **12/23** - 2024 **2/12**

宗理期 特別版
春朗期

MUSEUM SHOP
con amore
www.grandtoit.jp/shop/

■営業時間/9:30~17:00
■店休日/毎週火曜日、年末年始
■TEL/0856-31-1874

石見美術館で北斎展を鑑賞して、
新春の運だめし!

「グラントワ共通カード」、「ミュージアムパスポート」の会員様を対象に、北斎グッズが当たる福引きを開催します。
ぜひこの機会にご入会ください。
※「ホール友の会」、「シマチケ」会員は対象外です。※必ず会員証をご持参ください。

新春福引き 2024 1/3 WED - 1/8 MON

節分福引き 2024 2/3 SAT - 2/12 MON

当日ご入会の新規会員様も参加いただけます。

福引対象会員

グラントワ共通カード
美術館も劇場も楽しみたい方におすすめ!
会費(税込) 一般 4,000円、大学生 3,000円、小中高生 2,250円

ミュージアムパスポート
美術館への入館がいつでも無料!
会費(税込) 一般 3,000円、大学生 1,800円、小中高生 900円

劇場を楽しみたい方はこちら!

ホール友の会
劇場イベントの先行予約&先行購入!
会費(税込) 2,000円

オンラインチケット「シマチケ」
登録無料

グラントワ会員の詳しい内容は ▶

【化物和本草】(部分) 島根県立美術館蔵(永田コレクション)
【通期展示(展示箇所変更)】